

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 企業物価指数(2008年1月)
 ~前年比+3.0%と高い伸び~

発表日2008年2月13日(水)

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 エコノミスト 中本 泰輔
 TEL: 03-5221-4549
 (単位: %)

		国内企業物価				国内企業物価 (連鎖指数)		輸出物価		輸入物価	
		前期比	前年比	最終財		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
06	2月	0.3	2.2	0.1	▲0.5	0.2	2.2	1.4	3.7	3.8	20.9
	3月	0.0	2.0	▲0.1	▲0.7	0.1	2.0	▲0.5	2.8	▲0.4	18.6
	4月	0.4	1.8	▲0.3	▲1.1	0.2	1.6	0.5	2.8	0.8	13.9
	5月	0.4	2.3	▲0.1	▲1.0	0.4	2.1	▲1.9	2.1	▲0.7	13.6
	6月	0.0	2.5	▲0.1	▲0.9	▲0.1	2.2	1.6	3.4	2.5	16.0
	7月	0.6	2.5	0.1	▲0.9	0.6	2.2	1.4	3.1	1.6	13.7
	8月	0.4	2.7	0.3	▲0.5	0.3	2.3	0.7	4.3	1.9	15.3
	9月	0.1	2.7	0.0	▲0.7	0.2	2.4	0.8	5.0	1.0	14.5
	10月	▲0.5	2.0	▲0.3	▲0.8	▲0.5	1.7	0.2	3.5	▲1.4	9.5
	11月	▲0.1	1.9	▲0.1	▲0.7	▲0.1	1.6	▲0.9	1.2	▲2.1	5.8
	12月	0.1	1.8	0.0	▲0.8	0.0	1.4	0.2	1.4	0.3	6.6
	07	1月	▲0.2	1.5	▲0.5	▲1.0	▲0.1	1.2	1.3	4.9	2.9
2月		0.0	1.2	▲0.1	▲1.2	0.0	1.0	▲0.1	3.3	▲2.0	4.3
3月		0.2	1.4	0.0	▲1.1	0.1	1.0	▲1.3	2.5	▲0.3	4.4
4月		0.8	1.8	0.1	▲0.7	0.6	1.4	1.4	3.4	3.3	7.0
5月		0.3	1.7	0.1	▲0.5	0.2	1.2	1.4	6.9	3.5	11.5
6月		0.1	1.8	▲0.1	▲0.5	0.1	1.4	1.2	6.5	1.6	10.6
7月		0.7	1.9	0.2	▲0.4	0.6	1.4	▲0.3	4.7	▲0.2	8.6
8月		0.0	1.5	0.0	▲0.7	0.0	1.1	▲3.1	0.8	▲2.2	4.2
9月		▲0.1	1.3	▲0.1	▲0.8	▲0.1	0.8	▲1.0	▲1.0	▲1.0	2.2
10月		0.3	2.0	0.1	▲0.4	0.2	1.5	0.7	▲0.5	3.3	7.1
11月		0.3	2.4	0.3	0.0	0.3	1.9	▲2.7	▲2.3	▲0.7	8.6
12月		0.3	2.6	0.4	0.4	0.3	2.2	0.5	▲2.0	4.0	12.6
08	1月	0.2	3.0	▲0.2	0.7	0.1	2.3	▲2.4	▲5.7	▲2.4	6.8

(出所) 日本銀行

○ 1月の国内企業物価は前年比+3.0%と前月から伸びが拡大

1月の国内企業物価は前月比+0.2%、前年比+3.0%とコンセンサス(同+2.8%、レンジ: +2.6%~3.0%)をやや上回る高い伸びとなった。国内企業物価は4ヶ月連続で前月比プラスとなり、足元強めで推移した。内訳を見ると、前月比ベースでは、電力・都市ガス・水道(前月比+1.6%、寄与度+0.07%ポイント)やその他工業製品(前月比+0.9%、寄与度+0.06%ポイント)、スクラップ類(前月比+5.5%、寄与度+0.05%ポイント)、鉄鋼(前月比+0.6%、寄与度+0.04%ポイント)、化学製品(前月比+0.4%、寄与度+0.04%ポイント)などがプラスに寄与した。一方で、農林水産物(前月比▲3.6%、寄与度▲0.09%ポイント)はマイナスに寄与した。

このところ、国内企業物価を押し上げていた石油・石炭製品であるが、今回は前月比+0.3%と上昇が一服している。これは、輸入物価の契約通貨ベースでみれば、石油・石炭製品は前月比+8.8%と引き続き高い伸びを示しているが、為替が円高で推移したことから、円ベースでは同▲3.3%となったためである。原油価格は依然として1バレル90ドルを超える水準で推移していることを考慮すると、為替動向しだいで再び伸びが加速する可能性もある。

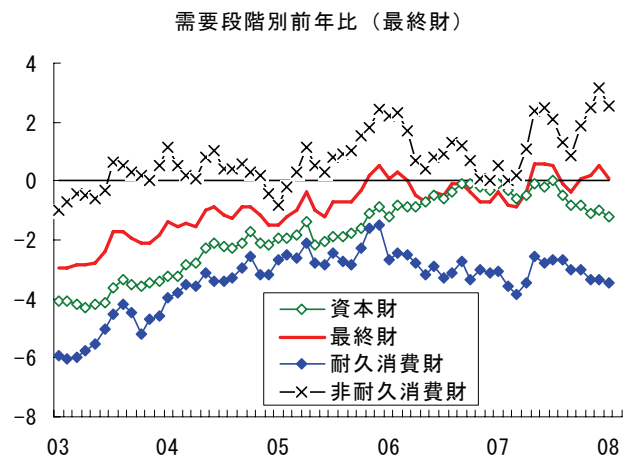
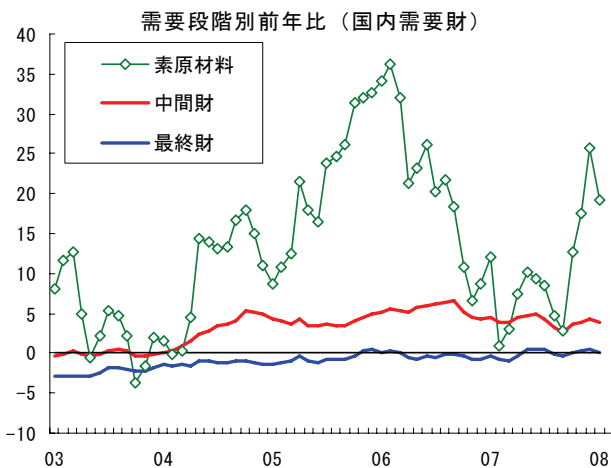
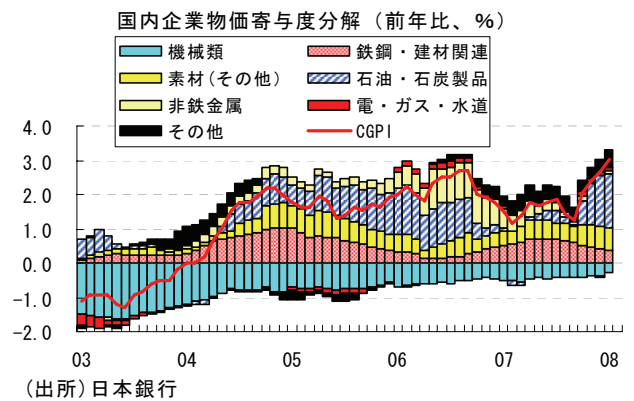
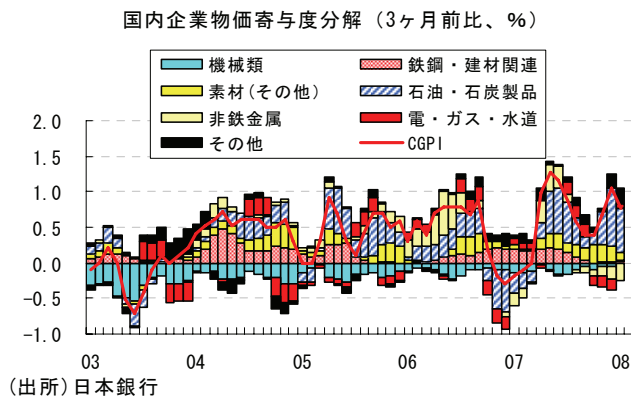
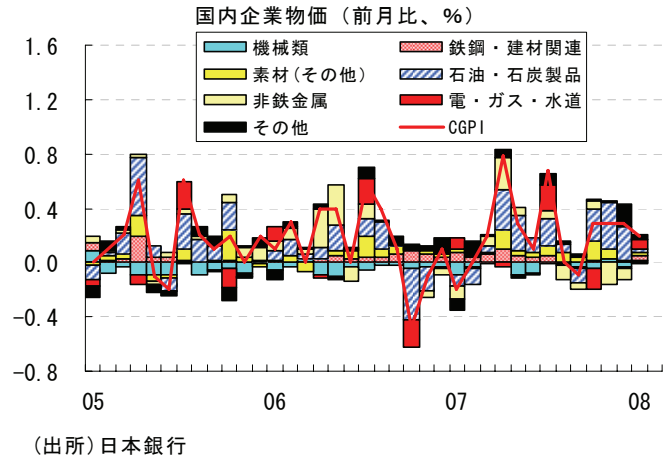
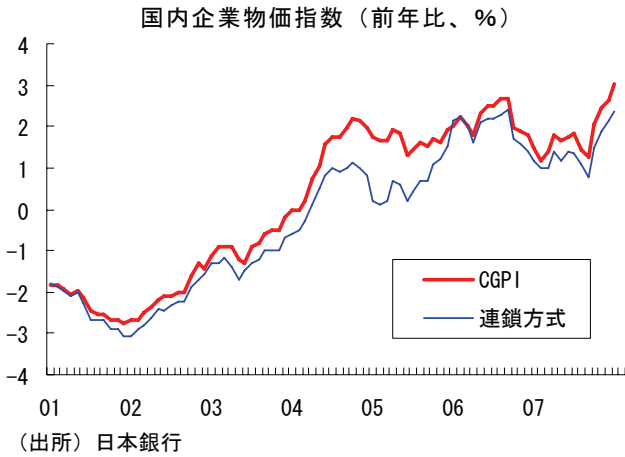
○ 消費財は前年比で伸びが加速

国内品を需要段階別にみると、素原材料は前年比+7.1%(12月: 同5.2%)、中間財は同+4.5%(12月: 同+4.2%)、最終財は同+0.7%(12月: 同+0.4%)となった。

消費者物価の財価格と関連が深い消費財も、国内品で前年比+1.3%(12月: 同+0.9%)と伸びが加速し

た。消費財をさらに細かく見ると、耐久消費財はIT関連財の価格の下落により同▲2.7%（12月：同▲3.4%）と引き続き前年比で大幅な下落となった。一方で、非耐久消費財は液化石油ガス、ルウや果実飲料などの加工食品の価格が上昇したことにより同+2.9%（12月：同+2.7%）と伸びが加速した。

原材料価格の高騰が徐々にではあるが最終財の価格を押し上げている。足元まで、消費マインドの悪化傾向が顕著であるが、価格転嫁が進むことでさらに消費マインドが悪化し、個人消費が下押しされるリスクがあることには注意が必要だ。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。